

水害被災住家の対応について

1. 水害被災住家対応の流れ

壁、床撤去、床換気口の設置→泥出し→洗浄→乾燥期間→消毒→復旧

※地震被害があるので、安全確認を事前に行い作業を始める必要がある。

2. 壁撤去 材料を乾燥しカビや腐朽を防ぐこと、カビの除去が目的。

床を撤去すると作業しにくいので壁の撤去を先に行う。壁の撤去範囲は浸水深以上とし、復旧費用が過大にならないよう配慮する。濡れた断熱材は切断するなどして外す、グラスウールなど繊維系断熱材は処分、発砲系断熱材は洗浄後、乾燥して再利用が可能。間仕切り壁は片面撤去し消毒で対応も可能。ユニットバスの外周部にベニヤ等ある場合はカビの原因となるため外壁の撤去が必要になる。

3. 床撤去 泥出しと地面や材料を乾燥させ、カビや腐朽を防ぐことが目的。

浸水部の床を全撤去すると乾燥は速くなるが、復旧費用が高くなる為、建物所有者の了承が不可欠である。例として、畳下は復旧が簡単なので全撤去し、フローリングは範囲を限定して撤去、または換気用開口を設ける対処があり、開口部を既製品の点検口サイズとすると復旧が簡単である。浸水によりフローリング材が膨張や表面剥離などする場合は撤去が望ましいが、費用などを考慮する必要がある。無垢床材で床下の換気がよい石端建て工法の場合は撤去せずに洗浄、ふき取り、消毒などで対応することも可能である。

4. 泥出し

床下の水を抜いてから泥を取り除く。場合によりポンプ排水も有効である。泥は少量残してもよい。水洗便所の普及により、泥は以前のように悪臭を発生することは少なく、乾燥して匂いがない場合は問題がない。湿気をもつ泥の水分が木材に移ることを避ける為、可能な範囲で除去する。1センチ程度の泥は、乾燥を早めるために熊手などで耕すように表面積を増やし、撤去しないこともある。床下を利用した全館空調などの場合は、カビが壁内や室内に拡散する原因となるので可能な限り除去する。床を撤去しない泥出しは作業性が悪く非効率な面もある。

5. 洗浄

泥は養分が高いため水分がある場合は菌が繁殖し易い。乾燥とその後の消毒作業では、表面の泥などの汚れの除去が必要であり、できるだけ洗い流しやブラシで除去し、床などの拭ける部位は泥と水分を除去する。基礎パッキンに残る泥はブラシやエアコンプレッサーなどを使うとよい。束などの木部に付いた泥も除去する。消毒は大切であるが、洗浄をしっかりと行うことでカビや腐朽を抑制できる。

6. 乾燥

換気を良くし最低 2 週間ほど乾燥させる。木材の含水率 25%程度を目標とするが、奥まったところ北側など環境により乾燥が遅く、目標に至らない場合がある。十分な乾燥を行うべきだが、復旧時期の都合で時間の確保が難しい場合もある。日常的な乾燥や定期的に消毒を続け、一年ほどかけて対応する場合もある。乾燥を促す為、ダクトファンや扇風機、エアコンなどを使用する。

7. 消毒 カビや腐朽など菌の発生を防ぎ除去することが目的。

泥や土が付着していると消毒効果が低減する。逆性石けん（ベンザルコニウム塩化物）「オスバン S」を 100 倍程度に薄めて噴霧し 1 分ほど経過後、水分を拭き取ると効果が高い。木部は水分が沁み込み、拭き取りも難しいのでエタノールの使用が望ましい。カビが既に発生している場合はキッチンペーパーなどで除去し、使い回しをしない。床拭きはマイペットなど掃除用洗剤で代用できる。菌は浸水部以外にも存在するため、浸水していない壁の消毒も効果的である。木材への防蟻処理は消毒の代用にもなる。土やコンクリート面は消毒不要だが、クリニックなどの高い衛生環境が必要な場合はエタノールで除菌を行う。エタノールは火気厳禁であり、床下など密閉環境ではアルコールで酔うことがあるので換気を十分に行う。揮発の早い無水エタノールよりエタノール 80%程度のものを使用する。薬局より業務スーパーが安く、大量購入の場合はアマゾン等で購入できる。輪島市はオスバン S を被災宅に配布している。